11月20日まで

国立アイヌ民族博物館　第５回特別展示
「イコロ ウエカリル アイヌ資料をコレクションする」

アイヌ民族の歴史と文化を語るうえで欠かせない「アイヌ資料」。その中の民具に焦点を当て、各時代の人物や組織がどのような目的でコレクションしたかを約250点の展示を通し紹介しています。

「アイヌ資料とは何か」「コレクションが始まる時代」「形成される時代～好古と考古のまなざし」など五つのテーマで構成。アイヌ資料に関する国指定重要文化財の展示もあり、江戸の文人が集めた「菅茶山コレクション」、風俗を描いた村上島之允「蝦夷島奇観」、アイヌの家系に代々伝わった太刀「白長覆輪太刀」など５件を含んでいます。また、重要有形民俗文化財や本道初の展示、アート性の高い資料、本道最初の博物場の展示室の再現など、「めったに見られない展示が多い充実した内容です」と来館を呼び掛けています。

講演会、シンポジウム、同館職員によるギャラリートークなど関連イベントの詳細は博物館ウェブサイトを参照してください。

【11月３日　ウポポイ無料開放のお知らせ】

「文化の日」にちなんで実施します。ウポポイ入場料と博物館特別展示観覧料が無料です。多彩な特別プログラムを用意しています。

※ホームページでのウポポイ入場予約は不要ですが、博物館への入館予約は必要です。
※有料体験プログラム、駐車料金は通常通り有料です。

知っておこう アイヌ文化

イサパキㇰニ

イランカラㇷ゚テ。今年もカムイモシㇼ（神の国）からアイヌモシㇼ（人間の国）へ、お土産を抱えたカムイチェㇷ゚（サケ）がやって来ました。余すことなく料理に生かせる、そして、ケㇼ（靴）の材料として皮までも活用できることは、アイヌ（人間）にとって大切なカムイチェㇷ゚からのお土産であります。そうしたお土産を抱えたカムイチェㇷ゚は、礼節を欠かさない、精神の良いアイヌが差し出すマレㇰ（かぎ銛）のもとへと向かいます。カムイチェㇷ゚は、その体をお土産としてアイヌに授け、お土産をもたらしてくれたカムイチェㇷ゚に対するお礼として、アイヌはカムイチェㇷ゚の頭を、ヤナギやミズキで作ったイサパキㇰニ（打頭棒）で、「イナウコロ（木幣を持て）」と唱えながら叩き、カムイチェㇷ゚は喜んでカムイモシㇼへと、イサパキㇰニをお土産として持ち帰って行くのです。万一、木片や石でカムイチェㇷ゚の頭を叩くようなことがあれば、２度とカムイチェㇷ゚は、そのアイヌのもとにやって来なくなると言います。

イサパキㇰニは、削りかけが付いており、皮を剥いだ部分を握る

さて、イサパキㇰニは現代社会を生きる私たちに、アイヌとカムイ（神）が相互に依存するというアイヌ文化の核心を垣間見せると同時に、自然の中で人間は生かされているということを想起させています。チキサニでは、10月20日㈭にマレㇰやイサパキㇰニを体験できる、川のイオル「川漁体験」を開催します。詳細は本紙の「くらし百科　催し　イオル体験交流事業」をご覧ください。

政策推進課　アイヌ政策推進室　学芸員　森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所　チキサニ　☎８２－６３０１

地域おこし協力隊通信

山岸奈津子さん（42）
文化芸術振興担当（１年目）

７月、地域おこし協力隊に就任しました。昨年から始まった芸術祭「ルーツ＆アーツしらおい」をきっかけに白老に通うようになり、町の人と自然とごはんのおいしさに惹（ひ）かれ移住を決めました。

担当は文化芸術振興です。文化芸術との関わりは、２０１４年、音楽家・坂本龍一さんを芸術監督に招き立ち上がった「札幌国際芸術祭」の広報担当でした。作家や作品が持っている自分には無かった新たな視点－言わば魔法の「めがね」を通して世の中を見ると、いつもと違う景色や見えなかったものが見えたり、さらにその「めがね」には、まちをカラフルに変えてちょっと好きにさせちゃう効果までありました！このときのワクワクした体験が私の根っこにあります。そんなワクワクを白老町で一緒につくっていきたいと思っています。

魔法の「めがね」で世の中を見る

現在、白老町の歴史・文化・芸術について勉強しながら、町内にある情報をひとまとめにしたデジタル地図「しらおい文化芸術マップ」を絶賛開発中（笑）です。また、新しい事業の企画も進めています。「こんなことあればいいのに、起これば」を、ひとつずつ実現したいです。